

雜 錄

萬國工業會議概況(1)

本會議は世界各國の學者及び工業家を一堂の下に會同せしめ工學及び工業に關する論文の發表及び意見の交換を爲し以て相互の知識を増進すると共に世界人文の進歩發達に寄與貢獻する事を目的とし本協會を含む十二學協會を以て組織する工學會主催の下に昭和4年10月25日より11月22日に亘りて開催せられたり。而して主要なる會議は10月29日東京市日比谷公會堂に於ける開會式及び總會に初り、翌30日より11月6日迄帝國議會貴族院議事堂に於て12の部門に分れて行はれたる各部會及び同7日同所に於て舉行せられたる總會并に閉會式なりとす。

本會議は辱くも 秩父宮雍仁親王殿下を總裁に奉戴申上げ内閣總理大臣を名譽會長に商工大臣及び澁澤子爵を名譽副會長に推舉し、各大臣、帝國學士院長、各大學總長、貴衆兩院議長、東京市長、日本商工會議所會頭及伯爵清浦奎吾、子爵金子堅太郎、男爵岩崎小彌太、同阪谷芳郎、同三井八郎衛門、鎌田榮吉の諸氏を顧問に推したり。

而して工學會理事長男爵古市公威氏會長となり副會長には男爵斯波忠三郎、同團 琢 麿、同四條隆英の諸氏を初め各學協會長を選任し、次に示す各要務委員長及び幹事の下に各委員ありて夫々會議の事務を處理せり。

總務委員長 男爵斯波忠三郎、計畫委員長 加茂正雄、資金委員長 大橋新太郎、論文委員長 俵 國一、會議委員長 稻田三之助、編纂委員長 那波光雄、見學委員長 八田嘉明、接待委員長 門野重九郎、庶務幹事 佐野秀之助、會計幹事 膳 桂之助
又各部會に於ては夫々座長及理事を選任し各部門に關する會議を處理せり。此外尙各方面の主なる學者及び實際家を網羅し、本會議の成功に對し多大の盡力を仰ぎたり。

本會議は總會及び部會の2種となし、尙旅行及見學を行ひ記録の出版其他會議の目的達成に必要な事項の施設をなし、以て所期の成果を收むるを得たり。

今會議の日程を示せば次の如し。

日 程	
I. 會 議	
10月29日(火) 午前9時開會式及總會(東京市日比谷公會堂) 總裁秩父宮殿下臺臨	11月1日(金) 午前9時半部會(帝國議會議事堂) 午後2時部會(帝國議會議事堂)
10月30日(水) 午前9時半部會(帝國議會議事堂) 午後2時部會(帝國議會議事堂)	11月4日(月) 午前9時半部會(帝國議會議事堂) 午後2時部會(帝國議會議事堂)
10月31日(木) 午前9時半部會(帝國議會議事堂) 總裁宮殿下部會台臨(午後總裁宮殿下御召の園遊會に付部會休會)	11月5日(火) 午前9時半部會(帝國議會議事堂) 午後海外會員茶會の御召に付部會休會
	11月6日(水) 午前9時半部會(帝國議會議事堂) 午後2時部會(帝國議會議事堂)
	11月7日(木) 午前9時總會及閉會式(帝國衆議院)

議事堂)

II. 宴會其の他の接待

- 10月28日(月) 夜9時會長主催歡迎夜會(帝國ホテル)
- 10月29日(火) 夜9時海外會員招待の總理大臣夜會(總理大臣官邸)
- 10月31日(木) 午後2時半總裁秩父宮殿下より御召の園遊會(新宿御苑)
- 11月1日(金) 正午海外會員招待の東京市長午餐會(東京會館)
- 11月4日(月) 午後2時より4時迄陸軍主催茶會(後樂園)
- 11月5日(火) 午後海外會員御召の茶會(霞ヶ關離宮)
- 11月6日(水) 午後7時海外會員招待の會長送別正餐會(東京會館)

III. 講演會

- 10月30日(水) 午後學術講演會
- 11月1日(金) 午後工業講演會
- 11月4日(月) 午後通俗講演會
- 11月5日(火) 午後通俗講演會

IV. 見學旅行

- (1) 日光 (2) 箱根 (3) 鎌倉 (4) 東京復興事業見學 (5) 横濱 (6) 東京附近工場研究所及試驗場見學 (7) 横須賀 (8) 大宮 (9) 熱海 (10) 富士五湖 (11) 足尾 (12) 日立 (13) 仙臺松島 (14) 猪苗代、阿賀川 (15) 秩父 (16) 名古屋 (17) 京都直行 (18) 京都、奈良、大阪及神戸 (19) 内海長崎 (20) 内海別府 (21) 宮島別府 (22) 宮島長崎 (23) 宮島三池 (24) 宮島雲仙 (25) 朝鮮滿洲 (26) 臺灣(内地より直行) (27) 臺灣(滿洲廻り)

見學旅行に於ては東京帝國大學教授伊木常誠博士及び福地信世兩氏が其計畫及び實行に至る迄親しく多大の盡力をせられ所期の目的を達するを得たり。

本會の會員は總計 3030 名に達し、本會に出席したる外國人の數は會員約 343 名、客員外 157 名合計 500 名にして之を國別に示せば次の如し。

Country	Member	Guest	Total
Argentina	1	0	1
Austria	1	1	2
Australia	3	3	6

Country	Member	Guest	Total
Belgium	11	3	14
Burma	1	0	1
Brazil	1	0	1
Canada	4	0	4
China	51	1	52
Czechoslovakia	3	1	4
Denmark	9	4	13
Finland	1	0	1
France	8	0	8
Germany	38	12	50
Great Britain	35	10	45
Italy	13	2	15
Netherlands			
East Indies	3	3	6
Poland	1	0	1
Philippine Islands	6	1	7
Straits Settlement	2	0	2
South Africa	2	0	2
Sweden	9	5	14
U. S. S. R.	9	0	9
U. S. A.	131	111	242
Total	343	157	500

即ち米國最も多く次に支那獨逸英國之に次ぐ。

各部會に提出の論文は總數 812 にして之を次の各部會に分ちて朗讀發表せり。

- 第 1 部會 工業一般及び雜
- 第 2 部會 工業科學、精密機械、航究、工業材料
- 第 3 部會 建築及構造
- 第 4 部會 土 木
- 第 5 部會 鐵道及運輸
- 第 6 部會 通 信
- 第 7 部會 動力、電氣工學及照明
- 第 8 部會 機械、冷蔵、織物及自動車
- 第 9 部會 船 舶
- 第 10 部會 化學工業、燃料及び燃燒工學
- 第 11 部會 採鑛冶金
- 第 12 部會 科學的管理

而して各部會には夫々特色を發揮したる有益なる論文の發表多く、從ていづれも多數の聽衆を得て興味を喚起し十分に所期の目的を達し得たるは本會議のため祝福すべき事と信ず。

各部會の模様を一々詳細に誌す事は却て煩雜を増すのみなれば茲には第 11 部會即ち採鑛冶金に關せる者に就て其概況を記せんとする

第 11 部會 概況

第 11 部會に於ては採鑛及冶金に關する論文を處理せり。之を大別すれば鑛業全般に關する論文採

鑛、選鑛、石油採掘の各部門、又非鐵冶金に就きての論說、鐵冶金及金屬の物理的冶金に關する諸種の論文より成り、著しく廣汎なる範圍を論議せしものなり。

從て其の提出論文の數は實に 124 に達し、日本 77、米國 14、英國 6、獨逸 14、佛國 4、瑞典 4 支那 2、伊太利 1、白耳義 1、フィリッピン 1 の 10 ケ國に互れり。此等の論文は主として論文委員よりの勧誘に應じ提出せられたるものにして、各國の政府代表、學會代表、學校代表、其他研究機關よりの提出論文或は個人の研究調査による論文等何れも鑛業に關する實際問題並に學理問題に觸れて斯界に有力屈指の論說を集中せるものなり。

以上の如き 124 の論文を主部より與へられたる日程表に基き、本會期中前後 9 回の會議即ち此總計時間僅かに 24 時間を以てしては一論文の朗讀及討議に與へらるゝ時間は、平均僅に 10 分に足らず、從て到底會員並に著者の満足を期すること不可能なるを察し、各論文に就き發表に要する時間の長短、論文の種類等を考慮し本萬國工業會議 Programme of Sectional Meeting に印刷せる如き配列を行ひ、以て時間の經濟的利用に努めたり。

論文發表の方式に就きては著者の何れに對しても各自豫定時間を與へ其範圍内に於て或は Abstract 或は其の主旨の發表を乞ひ、又外國代表其他外國論文に對しては、會議出席者の本邦に到着せるは會議の數日前なりし爲、論文朗讀時間の豫告等をなす事能はざりしため、各發表の前日又は當日に於て臨機の所置を採用したり。

以上の如くして提出せられたる論文は或は詳細に入り或は大要に於て總數を朗讀し得たるものにして、缺席著者と雖も著者に對する敬意を表せんが爲めに夫々代讀を行ひたり。特に論文の代讀には英語發音に熟練せる遠藤吉次郎、渡邊良三、鈴木芳夫 3 氏を囑託し論文の要旨を明確に講聽者に徹底せしむる様特に意を用ひたり。

其他瑞典人提出の論文に對しては、同國人にして理事たりし E. Brauns 氏又は Swedish Iron & Steel Institute 代表者 B. Kjerrman 氏等が同國缺席者の爲めに代讀の勞を取られ、又獨乙人提出のものに對しては、Dr. Ery 氏登壇、代讀及び討議の代辨を行ひ、或は白耳義政府代表リェージ大學教授 Furmarier 氏の如きは自己論文が日本人によりて代讀せられ居る途中より出席し、眞摯の態度を以て自ら尙更に自己の論文要旨に對し大に所説を演べられ又 President of American Institute of Mining & Metallurgical Engineers なる Bradley 氏は自ら座長の役目を有するに拘らず一時座長代理を理事に依託し、自ら壇上に立ちて 50 分に近く Probert 氏の“世界的見地に立脚せる非鐵金屬”と題する長論文を熱心に朗讀せるが如きは聽衆の等しく感謝せし處なり。又第 1 日は討議を提出せしものなかりしが、第 2 日頃より主として外國會員よりの討論質問を喚起し、次で日本人會員の討論をも見るに至り、殊に 11 月 5 日午前の部會の如き討論質疑交々起り會員相互の意見交換に多大の興味を喚起し本會議の能力を益々發揮せしは幸甚とする所なり。

以上討論の要旨は關係者各自より其報告を蒐集中にして後日 Proceeding に掲載すべき筈なり。

座長に關しては各國主腦代表等に對し依頼をなし、米國 4 人、日本 3 人、獨逸 2 人、英國 1 人、佛國 1 人を選出したり。但し總會に於て選舉せし佛人 de Berc 氏の出席なき爲め、米國 F. F. Lucas 氏に臨時座長を依頼し、又其他座長たるべき、二、三氏の時間繰合都合等に依り、多少の變更を行ひ實際座長の役を勤められたる人々及日程は次の如し。

第 1 回 (10 月 30 日午前)	採鑛冶金一般論文	座長 F. W. Bradley. (米)
第 2 回 (10 月 30 日午後)	採鑛冶金一般論文	" F. F. Lucas. (米)
第 3 回 (10 月 31 日午後)	採鑛を主とする論文	" A. Grunbrecht. (獨)
第 4 回 (11 月 1 日午前)	非鐵冶金を主とする論文	" C. Schiffner (獨)
第 5 回 (11 月 1 日午後)	鐵冶金を主とする論文	" { 依 國 一 (日) 本多光太郎 (日)
第 6 回 (11 月 4 日午前)	選鑛及び石油採鑛を主とする論文	" G. O. Smith. (米)
第 7 回 (11 月 5 日午前)	鐵冶金を主とする論文	" H. S. Thomas. (英)
第 8 回 (11 月 6 日午前)	合金、物理冶金を主とする論文	" { F. F. Lucas. (米) 齋藤大吉 (日)
第 9 回 (11 月 6 日午後)	鐵冶金を主とする論文	" G. K. Burgess. (米)

之に對し理事 E. Brauns. 宮崎虎一、中川 信、小田川達朗の三氏交互に會務を處理し議事の遂行に就き座長を補佐す、但し(理事松澤傳太郎氏は當時海外旅行不在なりしも本部會の計畫の最初に於て多大の盡力を注がれたることを附記す)。

以上要するに他に類例なき多數の論文の總てに就き朗讀を行ひ、而も有力なる質疑應答討議を盡し各回共與へられたる時間を完全に利用し大に効果を收め得たるは當事者の幸甚とする所なり。

尙出席會員は何れの場合に於ても常に滿員にして座席相足らざるの盛況を呈し、特に初回に於ては殺倒せる内外人の出席會員は座席なくして、室外に湛るゝ有様なりし爲め、第 3 回以後は部會室の變更を行ひたり。而も最後の回に於けるまで多數の出席者を見たるは外國代表の熱心及本邦會員の本部會に對する援助並に各座長の所置宜しきを得たるものと深く感謝する所なり。

尙最後 11 月 6 日午後本部會の閉會に臨み子爵井上匡四郎博士壇上に立ちて挨拶を述べ、本部會の成功に對しては會員諸君の熱心なる援助によること大なるを謝し又連日の各座長諸氏、理事、代表者諸氏等の勞を感謝し、拍手裡に部會を閉會せり。

鑛業全般に關する論文概況

鑛業全般に關する論文發表は主として部會初日たる 10 月 30 日午前及び午後に渡つて行はれ、米國ブラッドレー氏及びルーカス氏座長となりて司會せられ非常な盛會なりき。

獨逸クルツプ會社技師長バンゼン博士は各種冶金方法に於て熱物理學方面の研究の極めて必要なる事を示し、熱及び瓦斯の流通に關聯して科學的管理を基調としたる時間と場所限界の問題の重要なる

所以を説き、米國ブラスラート會社冶金技師キニー氏は「冶金工業に於ける動力」なる題下に於て近來米國に於て急激なる發展を來せる冶金工業に對する電力應用に關して有益なる事實を指摘し、就中重要なる發達を來せる大規模の金屬抵抗爐に依る鐵及び非鐵金屬材料の熱處理、眞鍮の壓延熔融鑄造を初め、鋼鑄造用電氣爐の急激なる進歩に就て、並びに生産頓に増加したる電氣亞鉛に就て論述し、冶金工業に於ける電力は米國工業發展に於て極めて重要なる要素となれる事を述べて聽衆の注目を惹けり。

又英國ハツドヒールド氏の論文は冶金爐に於ける熱の經濟に就て述べ、米國レイス氏は世界の鐵鑛供給に關して論じ、日本鐵鋼協會會長 服部 漸博士は我國の鐵鋼業の狀勢を紹介し、東北帝國大學教授本多光太郎博士は我國金屬科學の發達を述べ、日本鑛業會長 原田鎮治博士の論文は本邦の鑛業に就て簡単に述べられたる者なり。

就中興味を惹きしものは米國カリフォルニア大學長プロバート氏の論文なりき。即ち同氏は「世界的見地に立脚せる非鐵金屬」なる題下に於て豊富なる資料を基礎として非鐵金屬の開發に關する意見を述べ、廣く世界人類の福祉を増進し、文明の寄與に對して非鐵鑛物資源の極めて重要なる所以を強調し、世界の趨勢は、銅、鉛、亞鉛の如き非鐵金屬の消費益々増加の傾向にあり、之等金屬の販路は廣範圍に各種工業界に及べる事實を示し、既知鑛物資源に關する捌口は大なるに拘はらず新鑛區の發見少なく或は遠く、之等金屬材料の供給持續のためには未開の地域の開發と云ふよりは寧ろ科學的知識を基礎としたる技術の發達に俟つべき時代となれる事を指摘せり。

而して科學的研究の趨勢は全く化學並びに物理的變化の基礎的原理の究明にあり。之を基調としたる科學の力は徐々なれど着々として無爲なる經驗を驅逐し、實技に關する條理の探究に依り從來捨てゝ顧みられざる大地の中より大量の鑛床が開發せらるゝに至るべく、この意味に於て敢て自然の神の惠澤にのみ依らずと雖人智の啓發に依つて富源たり得る鑛物資源は益々擴充せらるべきを説けり。科學者の發見技術者の適用、茲に新たなる工業は創造せらる。新しき眞理の啓發と共に捨てゝ顧みられざるかの複雑鑛の處理にも大なる成功を來たし、鑛石價値に於ける世界の地圖はために塗り代へられたるに非ずや。

斯くの如くして鑛物資源の開發に對する使命の大なりと云ふ自覺を促がし鑛業の國際化を強調する事に依り廣く世界の平和は増進せらるべきを説きたるものなり。

終りに臨み東京帝國大學教授桂 辨三博士は會衆を代表して座長に感謝の意を表せり。

採鑛及び選鑛に關する論文概況

採鑛及び選鑛に關係せる論文の總數は 37 編にして之を著者の國籍別とすれば、日本 23 編、米國 4 編、佛國 4 編、瑞典 2 編、英國、獨逸、伯耳義、伊太利各 1 編なり。

會議部會は 10 月 30 日、31 日及 11 月 4 日の 3 日に亘り、各日共會員並に傍聽者の數は 200 餘名に達し盛會を極めたり。

10月30日は米國採冶學會員 W. Bradley 氏及米國 Bell Telephone Laboratory 技師 F. Lucas 氏交々座長の席に就きたり、當日は米國地質學會長 G. O. Smith 氏の「1913—1928」年間に於ける米國石炭鑛業の發達」及獨逸 Clausthal 鑛山學校長 A. Grumbrecht 博士の「獨逸に於ける鑛山技術の集中に就て」(幻燈使用)の講演は最も聽衆の興味を牽きたり。

10月31日は A. Grumbrecht 博士座長の下に司會せられ、當日の主要なる論文は東大助教授青山秀三郎氏の「岩石爆發の研究」京大教授松原厚博士の「電氣化學探鑛法」、東大助教授西尾滋氏の「本邦に於ける金銀鑛床」九大教授永積純次郎博士の「本邦に於ける炭鑛技術の進歩」、東大教授渡邊浩一氏の「砂層に於ける流體の流れに就て」等にして、尙此他英國 S. Sinnat 博士 佛國 De. Berg 氏、瑞典 H. Lundberg 氏等も有益なる論文發表したり。

11月4日は G. O. Smith 氏及 Davison 氏交々座長となりて開會したり。選鑛に關するものは古河鑛業會社理事山田復之助博士の「吾國選鑛の發達に就て」又東大助教授山口吉郎氏は「粉碎せる岩石及び鑛物の性質並に篩分結果の精確度に就て」有益なる論文を發表し、北大教授高桑健氏、明專教授岡田文五郎氏、藤田鑛業技師高田實氏等は夫々今日問題となりつゝある浮游選鑛法の根本理論に就て興味ある研究を發表せり。又石油に關するものは米國 J. B. Umpleby 氏は石油採鑛學に就て其内容及其必要を論じ、京大教授小田川博士は砂層内を流動する石油の透過度に就て論じたり。此外米國 M. L. Requa 氏及伊太利 P. Varani 氏の論文も讀まれたり。

非鐵冶金に關する論文概況

非鐵冶金に關する議事は主として11月1日午前に行はれ獨逸フライベルヒ大學冶金學教授シツフナー博士座長となり、16種の有益なる論文の發表があつた。多數の論文の中米國フェアモンド會社副社長アンダーソン博士の提出に係る「アルミニウム冶金の改革」に關するものは近來外國に於て顯著なる進歩を來せるアルミニウム冶金が如何にして今日の成功に達せしか興味ある事實を指摘して有益なる資料を與へ、前記シツフナー博士は非鐵金屬鑛石に對する乾式製鍊改善の指針に關して適切な所論を發表して實際家の注目を惹けり。又中華民國國民政府代表五寵佑氏は「最近に於けるアンチモニー冶金の發達」と題し支那にて行ひつゝあるアンチモニー製鍊に關し其概要を紹介せり。

日本側に於ては特に多數の論文を占め、東京帝國大學教授宮崎虎一博士の「本邦に於ける非鐵冶金の發達」に就ての論文を初め東北帝國大學教授池田謙三博士の「本邦に於ける銅冶金の發達」に就て京都帝國大學教授渡邊俊雄博士の「含銅硫化鐵鑛よりのコバルトの回收」の諸論文は學者側を代表し又大阪製鍊株式會社々長小島甚太郎博士の「ラメン法に關する論文」、佐賀關製鍊所長窪田哲二郎氏の「眞吹法に於ける最近の特徴に」就いて、日立鑛山技師德住宮藏氏の「本邦銅熔鑛爐に於ける微粉炭使用の發達」東京帝國大學助教授平社敬之助氏の「濕式冶金に關聯する硫化鑛石の硫酸化法に就いて」及び尾山輝雄氏の「酸素使用に依る亞鉛鑛の急速焙燒」等は何れも有益なる論文なりき。

尙最後に東京帝國大學教授桂辨三博士は會衆を代表して本日の部會の成功を祝し且議長に感謝の

意を表せり。鐵冶金に關する論文概況

鐵冶金に關する論文發表は 11 月 1 日午後、同 5 日午前、同 6 日午後の 3 回に渡りて行はれ其數 40 餘に上れり。其中輪西製鐵所川口正名氏の北海道沼鐵鑛に關する研究は我國製鐵業にとりて重要なる問題にして同鑛石利用の上に貴重なる材資料を提供せり。獨逸バウアー教授は普通鋼の中の砒素の影響を述べ普通鋼中には砒素 0.02~0.05%位は固溶體として存在するも此程度にては別段鋼の機械的性質に影響なけれども磷及硫黃の害を増大することを述べたり。室蘭日本製鋼所技師蒔田宗次博士は鋼の燒戻脆性に就て研究し此に對する新しい理論を呈出した。

獨逸ウエスト博士は直接製鐵法、鐵熔鑛爐に於ける熱風の効果及び平爐製鋼法に關する論文を呈出し、東北帝國大學教授村上武次郎氏はモリブデン鋼の變態點の降下の状態は鋼の加熱溫度及びその冷却速度に影響することを研究し其原因を説明せり。又英國ハツドヒールド氏の論文は滿俺鋼及び其發達と題し、滿俺鋼は如何なる方面に使用されつゝあるかを例示し、之を加工する工具鋼に就て述べ更に本鋼に關する最近の研究に就て述べたるものなり。又米國シュワルツ氏の呈出せるものは固相線以下の或一定溫度に起る白鉄鐵の黒鉛化現象の速度を數式に依りて示し之に依り黒鉛化現象を説明せる者にして大に興味ある論文なりき。

猶此外八幡製鐵所技師鶴瀨新五氏の「本邦に於ける製鉄業の發達と現状」、東北大學教授大石源治氏の「熔鋼の滿俺と熔滓」、京都大學教授山田賀一氏の「粉鐵鑛の還元燒結」、海軍造兵大佐吉川晴十博士の「内力による鍊鐵製鑛の脆性と鑄鐵製鑛の優越性」、獨逸シュルツ博士の「鋼の腐蝕と其防止」、京都大學助教授澤村宏博士の「白鉄の黒鉛化を助長する諸方法」及び東京帝國大學助教授田中清治氏の「鐵鑛中の硅酸よりの硅素の還元」、其他種々有益なる論文の發表並に代讀ありて頗る盛會を呈せり。

製造冶金に關する論文概況

製造冶金並に物理冶金に關する論文の發表は其數 20 餘にして主として 11 月 6 日午前の部會に於て米人 F. F. Lucas 氏及び齋藤大吉博士座長の下に行はれ非常なる盛會を呈せり。獨逸ゲツテンゲン大學教授タンマン博士の論文は金屬の再結晶の理論に關する著者の意見を發表せる者にして (1) 粘性的變形後に於ける結晶の状態 (2) 再結晶萌芽の發生 (3) 介在夾雜物の影響 (4) 結晶粒壁の移動 (5) 結晶方向の變移等の諸項に關し著者が多年の研究を基礎として精細なる解説を與へし者なれば金屬加工に従事せる人士の興味を惹けり。米人ルーカス氏は「トルースタイトの構造と其本性」と題し著者が過去數年間に涉り非常なる努力の結果初めて成功せし 3000 乃至 4000 倍の超高倍率顯微鏡寫眞を利用して炭素鋼の燒入れに際して現はるるトルースタイトの組織を 2 種に區別し、其各々に對して生成の順序、内部構造並に其本性に對して新しき説明を加へたり。又米國のヂェフリー博士の呈出せる論文は最近數ヶ年間に於て著しき進歩發達を遂げたるアルミニウム輕合金並びにマグネシウム輕合金數十種を羅列して其鑄造及び加工方法を論じ、次で其化學的成分と機械的性質並びに物理化

學的性質との關係を詳述し本合金の應用範圍と其將來に論及せるものにして斯界に對する好參考資料を提供せられたり。次に日本側に於ては京都帝國大學教授近重眞澄博士の「新しき貨幣用合金」、東北帝國大學教授石原寅次郎氏の「Al-Mn, Cu-Mn, 及び Fe-Mn 系合金の状態圖」を初め東京帝國大學助教授三島徳七博士の「ニッケル及ニッケル合金の燒鈍脆性に及ぼす炭素の影響」、及び東北帝國大學教授濱住松次郎博士の「Cu-Sn 系合金の平衡圖」等の諸論文は學者側を代表して各々多年の研究を發表して好評を博し、又八幡製鐵所技師永田五郎氏の「日本に於ける壓延工場の發達」、大阪造幣局技師廣瀬亞夫博士の「本邦に於ける造幣業の發達史」、及び戸畑鑄物會社技師菊田多利男博士の「チルドロールの研究」等の論文は大に實地専門家の注意を促がし何れも頗る有益なる發表なりき。(完)

日本鐵鋼協會日本鑛業會聯合外來賓招待會概況

11月4日連日の雨も氣持良くあがつた午後外來賓招待會を東京市外原宿なる團男爵邸にて開催す。玄関より入り男爵祕藏の名畫名器等秩序良く配列された數室を過ぎ庭園に出で茶室より大樹鬱蒼たる奥庭を経て廣場に至れば饗宴場に出づ。正面に餘興場周圍に洋食、てんぷら、すし、おでん、そば等の摸擬店設けらる。

定刻に先立つこと約30分リース、ロツクの兩教授を先頭として陸續として外賓、會員來會し。定刻既に外賓90餘名、會員及び同伴者180餘名に及びさしも廣きテントも滿員の盛況を呈せり和氣藹々裡にシャンパンの音一入賑ひを添ふ。支那人の餘興一段落を告げし後團男爵歡迎の辭を又合衆國鑛業會々長ブラッドレー氏來賓を代表し謝辭を述べ續いて選鑛の權威リチャード教授の挨拶及び團男爵の健康を祝し。日本鑛業會々長原田博士一同の爲めに乾杯をなし。伊國代表ルイーギ氏日、伊の繁榮を祈り歡談時の移るを知らず日は正に没せんとするに當り三三五々歸路に就く。時に午後5時30分因に當日贈呈せる紀念品なるメタルの精巧扇子の美は外賓をして特に喜ばしめた。

來賓及出席者次の如し。

團男爵邸園遊會來賓

Mr. & Mrs. Geo. D. Barron Mr. Béatrix Mr. & Mrs. Bes de Bère Dr. & Mrs. H. H. Blache
 Mr. & Mrs. F. W. Bradley Mr. C. Brauns Mr. Robert C. Canby Mr. & Mrs. F. G. Cottrell
 Mr. S. N. Castle Mr. & Mrs. Geo. M. Davidson Mr. & Mrs. V. N. Dorr Mr. Driesen Mr.
 & Mrs. Robert Follansbee Mr. Adolf Fri Mr. & Mrs. Fourmarier Mr. S. L. Gillan Prof.
 & Mrs. Alfred Grumbrecht Mr. & Mrs. Emile Halet Mr. Frank Hanus Mr. & Mrs. H. W.
 Hardinge, Miss Hardinge Mr. & Mrs. H. D. Hibbard Mr. J. D. Hitch Dr. B. Kjerrman
 Dr. Kralik Dr. & Mrs. Poul Larsen Prof. & Mrs. C. K. Leith Prof. & Mrs. C. E. Locke
 Mr. Francis F. Lucas Mr. Luiggi Mr. F. O. Martin Mr. O. V. Mrch Mr. S. H. Nyholm
 Mr. Otto Peter sen Mr. Stanislas Filat Mr. & Mrs. Mark L. Requa Prof. Robert H. Richards
 Mrs. Luther Rice Prof. Carl Schiffner Dr. & Mrs. Schnweller Mr. W. O. H. Schornstein
 Mr. Geo. Otis Smith, Miss Smith, Miss Pepper Baron Ungern Sternberg Dr. Elmer A. Sperry
 Prof. Fritz Suechting Mr. H. Spence Thomas Prof. T. E. Thomsen Prof. L. Tübben Mr.
 & Mrs. Scott Turner Mr. Chung-Yu Wang Mr. & Mrs. H. A. Wentworth Mr. & Mrs. Wm.
 Y. Westerv. It Dr. Wöbling

招待側出席及出席申出者 (アルハベツト順)

氏名	同伴		計	氏名	同伴		計	氏名	同伴		計
	令夫人	令嬢			令夫人	令嬢			令夫人	令嬢	
A											
淺野 總一郎			1	木村 久太郎	出	1	3	R			
朝比奈 貞英			2	黑板 傳作	出		2	ラントクラノ			
D											
團 琢 磨	出		2	窪田 哲二郎			1	S			
F											
福井 國太郎			1	小林 正直	出	1	3	齋藤 大吉			1
福富 忠男			1	小林 健二	出	1	3	齋藤 精一			1
藤岡 淨吉			1	小島 甚太郎	出		2	佐山 總平			1
H											
服部 漸	出	1	3	小池 寶三郎			1	佐野 秀之助			1
原田 鎮治	出	1	3	木部 一枝	出		2	笹尾 正一			1
林 幾太郎			1	加茂 正雄夫人			1	櫻井 爭三	出	1	3
孕石 元照			1	M							
橋本 字一			1	牧田 環	出	1	3	鹽田 泰介			1
濱田 八之助	出	1	3	前川 益以	出		2	鹽澤 正一			1
長谷川 鐵太郎	出		2	前澤 初治			1	澁澤 正雄	出		2
廣田 理太郎	出		2	前澤 初治			1	島 安次郎			1
平岡 通也			1	蒔田 宗次	出	1	3	鈴木 富治	出	2	4
I											
今泉 嘉一郎	出		2	榎 丹 治			1	菅原 誠	出		2
今岡 純一郎	出	1	3	松本 健次郎	出	1	3	杉本 五十鈴			1
井上 匡四郎			1	眞野 文二			1	T			
井上 禧之助			1	三井 米松			1	俵 國一			1
井口 庄之助			1	水橋 義之助			1	種子田 右八郎			1
伊藤 乙次郎	出		2	室井 嘉治馬	出	1	3	田中 平八			1
伊木 常誠			1	村井 鐵業株式會社			1	竹内 維彦			1
石本 惠吉	出		2	光 永 悅 一			1	高木 陸郎	出	1	2
石川 一 郎			1	N							
一色 虎兒	出		2	中野 忠太郎	出		2	谷田 友治			1
池田 謙三			1	中込 鐵一 郎			1	瀧川 廉雄			1
飯岡 政重			1	中川 信			1	辻元 謙之助			1
K											
川部 孫四郎			1	七海 兵吉			1	辻 嘉六			1
川上 義弘	出	1	3	西澤 公雄	出		2	寺内 錦一			1
川口 秀基			1	西尾 銈次郎	出		2	德永 重康			1
金子 増			1	西村 啓藏			1	U			
金子 恭輔			1	野本 清一	出	1	3	上野 康次郎	出		2
桂 辨三	出	1	3	野長 瀨忠男			2	鶴 澗 新五			1
神田 禮治	出	1	3	納村 章吉	出		2	W			
O											
				大久保 立			1	渡邊 俊雄	出	1	3
				大塚 榮吉			1	渡邊 謙吉			1
				大橋 新太郎			1	渡邊 誠			1
				小野崎 五郎			1	若林 彌一 郎	出	1	3
P											
				パウル・シュミツ			1	渡邊 三 郎			1
Y											
								横堀 治三 郎	出	1	3
								米澤 治太郎			1

米倉清族 2 3 | 山田復太郎 1 | 山野好恭 出 2 4
 ヨハン・ドリーゼン f | 山田眞吉 1 |

昭和4年11月中外國銑輸入高

輸出國\輸入港	横濱	神戸	大阪	門司	名古屋	其他	計	1月以降計
支那	—	—	—	—	—	—	—	2,122
印度	6,241	2,561	8,071	1,749	627	—	19,249	393,907
英國	716	184	—	—	—	—	900	9,050
獨逸	—	—	—	—	—	50	50	4,623
米國	—	—	—	—	—	—	—	30,717
瑞典	—	—	—	—	—	—	—	821
計	6,957	2,745	8,071	1,749	627	50	20,199	441,245

備考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て一擔 0.06048 噸の割合にて換算したり。

銑鐵市場在庫月報

昭和4年11月30日現在

三菱商事株式會社金屬部

持主別

市場	生産筋	問屋筋	消費筋	合計	前月比較
東京	14,433	4,290	13,165	45,280	+
横濱	13,392				
名古屋	5,276	3,765	1,670	10,711	+
大阪	15,720	20,850	66,930	103,500	+
門司	858	2,373	6,603	9,834	—
函館	—	—	—	—	—
室蘭	18,125	—	—	18,125	+
釜石	19,401	—	—	19,401	+
兼二浦	22,306	—	—	22,306	—
大連	58,974	435	670	60,079	—
其他	550	—	—	550	—
合計	169,035	31,713	89,038	289,786	+
前月比較	+ 2,221	+ 945	+ 715	+ 3,881	—
前年度同月	82,422	30,485	59,233	172,142	—

銑鐵市場在庫高月報

昭和4年11月30日現在

三菱商事株式會社金屬部

品兼二	種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
兼二浦	石	12,424	5,642	27,395	1,755	22,586	—	—	69,802	+
釜石	西	760	—	900	—	—	—	19,401	21,061	+
輪鞍	山	4,350	1,230	5,600	4	—	18,125	250	29,559	+
本溪	湖	1,649	645	7,870	1,390	56,062	—	300	67,916	+
淺野	湖	7,090	2,084	3,425	692	3,422	—	—	16,713	+
漢陽	湖	13,807	—	—	—	—	—	—	13,807	+
東八幡	湖	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仙八幡	湖	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大暮	湖	—	—	—	—	—	—	—	—	—
揚子	湖	—	—	—	130	—	—	—	130	—

龍 烟	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Tata	950	—	18,700	540	—	—	—	20,190	— 3,260
Burn	3,710	250	29,630	4,523	185	—	—	38,298	— 4,975
Bengal	250	560	6,650	187	—	—	—	7,647	— 950
Cleveland	110	—	—	—	—	—	—	110	— 40
Summerlee	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Hematite	160	—	1,080	—	—	—	—	1,240	— 175
Swedish	—	—	250	—	—	—	—	250	— 50
Luxembourg	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Alabama	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Mysore	—	—	—	406	—	—	—	406	+ 301
米 國 銑	20	—	200	—	—	—	—	220	— 800
大 陸 銑	—	—	—	7	—	—	—	7	— 108
雜	—	300	1,800	200	130	—	—	2,430	+ 120
合 計	45,280	10,711	103,500	9,834	82,385	18,125	19,951	289,786	+ 3,881
前月比較	+ 7,494	+ 5,916	+ 5,029	- 731	- 17,157	+ 2,743	+ 537	+ 3,881	—

昭和 4 年 10 月中外國銑輸入高

輸入港\輸出國	横 濱	神 戶	大 阪	門 司	名 古 屋	其 他	計	1 月以降 累 計
支 那	—	—	—	—	—	—	—	2,122
印 度	8,317	3,863	10,969	3,148	—	—	26,297	374,658
英 國	102	614	—	—	—	—	716	8,150
獨 逸	—	50	—	—	—	—	50	4,578
米 國	—	—	—	—	—	—	—	30,717
瑞 典	—	—	—	—	—	—	—	821
計	8,419	4,527	10,969	3,148	—	—	27,063	421,046

備考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て1擔 0.06048 噸の割合にて換算したり。

銑 鐵 市 場 在 庫 月 報

昭和 4 年 10 月 31 日現在

三菱商事株式會社金屬部

持 主 別

市 場	生 産 筋 應	間 屋 筋 應	消 費 筋 應	合 計 應	前月比較 應
東 京	8,373	4,730	13,983	37,786	— 6,175
横 濱	10,700				
名 古 屋	1,340	2,115	1,340	4,795	— 2,113
大 神 戶	12,646	20,050	65,775	98,471	+ 3,456
門 司	1,747				
長 崎	—	2,103	6,715	10,565	+ 1,421
函 室	—	—	—	—	—
釜 石	15,382	—	—	15,382	+ 1,480
兼 二 浦	18,373	—	—	18,373	+ 2,099
大 連	36,035	—	—	36,035	— 3,137
其 他	61,227	1,770	510	63,507	+ 11,768
合 計	991	—	—	991	+ 719
前月比較	166,814	30,768	88,323	285,905	+ 9,518
備 考	+ 13,395	+ 3,157	- 7,034	+ 9,518	—
前年度同月	84,896	28,776	50,555	164,227	—

銑鐵市場在庫高月報

昭和4年10月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

品名	種別	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
品兼二	浦石	9,518	1,469	14,793	1,851	36,125	—	40	63,746	+ 598
釜輪	西山	740	—	1,187	—	—	—	18,373	20,300	+ 3,041
鞍	山	4,085	865	6,460	201	—	15,382	800	27,793	- 2,591
本	溪潮	1,295	550	6,330	1,886	55,422	—	—	65,483	+ 12,905
淺	野	2,383	1,131	3,786	782	7,605	—	151	15,838	+ 1,348
漢	陽	11,220	—	—	50	—	—	—	11,270	- 191
東	鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八	幡	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仙	人	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大	暮	—	—	—	140	—	—	—	140	- 20
揚	子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
龍	烟	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Tata		7,160	—	16,450	440	—	—	—	24,050	+ 3,129
Burn		895	300	36,940	4,898	240	—	—	43,273	- 6,934
Bengal		180	170	8,100	147	—	—	—	8,597	- 1,442
Cleveland		150	—	—	—	—	—	—	150	+ 35
Summerlee		—	—	—	—	—	—	—	—	—
Hematite		140	—	1,275	—	—	—	—	1,415	+ 245
Swedish		—	—	300	—	—	—	—	300	0
Luxembourg		—	—	—	—	—	—	—	—	—
Alabama		—	—	—	—	—	—	—	—	—
Mysore		—	—	—	105	—	—	—	105	- 345
米國	銑	20	—	1,000	—	—	—	—	1,020	- 400
大陸	銑	—	—	—	115	—	—	—	115	+ 65
雜		—	310	1,850	—	150	—	—	2,310	+ 75
合計		37,786	4,795	98,471	10,565	99,542	15,382	19,364	285,905	+ 9,518
前月比較		- 6,175	- 2,113	+ 3,456	+ 1,421	+ 8,631	+ 1,480	+ 2,818	+ 9,518	—

昭和4年12月中(八幡)製鐵所銑鋼生產高表

銑鐵			鋼塊			鋼材		
當月生	前月比較	1月以降累計	當月生	前月比較	1月以降累計	當月生	前月比較	1月以降累計
60,318	— 93	787,360	113,083	- 3,081	1,321,696	101,240	+ 4,775	1,057,516